

エコアクション21

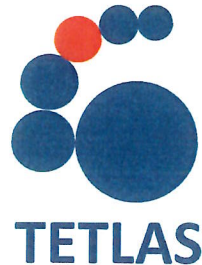
環境経営レポート

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

発行日 2025(令和7)年6月20日

株式会社 テトラス

(認証・登録番号 0000022)



目次

1. 環境経営方針	1
2. 企業概要	2
2-1. 事業所名及び代表者氏名	2
2-2. 所在地	2
2-3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先	2
2-4. 事業の内容	2
2-5. 事業の規模	2
2-6. 認証・登録範囲	2
2-7. 実施体制	3
3. 環境経営目標及び環境経営計画	3
3-1. 2024年度環境経営目標	3
3-2. 環境経営目標の担当部署及び責任	4
3-3. 環境経営計画（環境活動計画）	5
4. 環境経営目標達成状況	6
4-1. 環境経営目標の達成状況	6
5. 環境経営計画の取組結果と評価	10
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	11
6-1. 主な環境関連法規の遵守状況	11
6-2. 違反、訴訟等の有無	11
7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	12
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	13

1. 環境経営方針

株式会社テトラスの全従業員は、経営理念に基づき、環境保全に携わる者としての誇りを持ち、企業人としてはもちろん、一地球人として、自然を愛し、環境にやさしい行動を心掛け、地域の、ひいては地球環境の保全に寄与していきます。

当社は、環境に係る測定・分析・調査及び医療施設における環境管理業務（消毒・清掃）を事業としています。その事業活動においては、少量ながら様々な化学物質の使用、また電気、石油類、紙類などのエネルギーや資源の消費、さらに各種廃棄物の発生を伴います。私たちは、環境関連の法規制及びその他の要求事項を遵守するとともに、これらの物質による環境への汚染予防及び継続的な負荷削減を目的とした取組みを実施します。

- 1) 二酸化炭素排出量および総排水量は削減目標値（管理目標値）を定め、適切に管理します。
- 2) 資源の再使用、再利用、および廃棄物の分別管理を推進し、廃棄物量の削減とグリーン購入に取り組みます。
- 3) 化学物質は、法令に従い、適切に使用・管理します。
- 4) 環境に関する様々な情報を社内外に提供するとともに、地域の環境保全活動に対して積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。

平成 15 年 11 月 1 日制定

平成 17 年 6 月 1 日改正

平成 20 年 6 月 1 日継承

平成 24 年 6 月 4 日改正

令和 2 年 6 月 1 日改正

株式会社 テトラス

代表取締役 野崎新治

私は、当社における環境経営システムの責任者として、環境経営システムの確立、運用、かつ維持に関して全面的な責任を課します。

全従業員は環境経営システムに定められた職務を忠実に実行し、環境経営システムを積極的に支援するとともに、当社の環境方針および環境目標を実現するよう自主的に努力することとします。

2. 企業概要

当社は、平成 24 年度の更新審査において環境関連の測定分析やコンサルティング等の業務の他に医療施設の環境管理を事業とした部門を新たにサイトに加えて全組織、全活動を対象範囲としました。これらの事業の特色を活かしながらこれからも環境負荷の低減に取り組んでまいります。

地球温暖化防止活動やエネルギー問題に関しては、これから益々重要度が求められていくことと思います。これからも、社内の環境負荷の低減はもちろん、地域のエコアクション 2.1 普及にも積極的に支援して参りと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

なお、本レポートは、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の活動状況を取りまとめたものです。

2-1. 事業所名及び代表者氏名

- 株式会社 テトラス
- 代表取締役 野崎新治

2-2. 所在地

- 本社：山形県山形市大字志戸田 550 番地
- 庄内ラボ：山形県酒田市京田 1-2-7

2-3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

- 環境管理責任者 井上 政人
- 担当者 環境管理委員会（EA21 事務局）菊地 誠
- 環境コミュニケーション担当 井上 政人
- 連絡先 TEL 023-643-3226 FAX 023-645-6733
E-mail info@tetlas.co.jp

2-4. 事業の内容

■環境計量証明業務（大気・水質、土壌、騒音、振動、悪臭）、労働衛生関連業務（作業環境測定、コンサルティング）、医療（食品）関連における環境整備関連業務、エコアクション 2.1 認証取得支援業務、その他（飲料水検査、環境影響調査等）

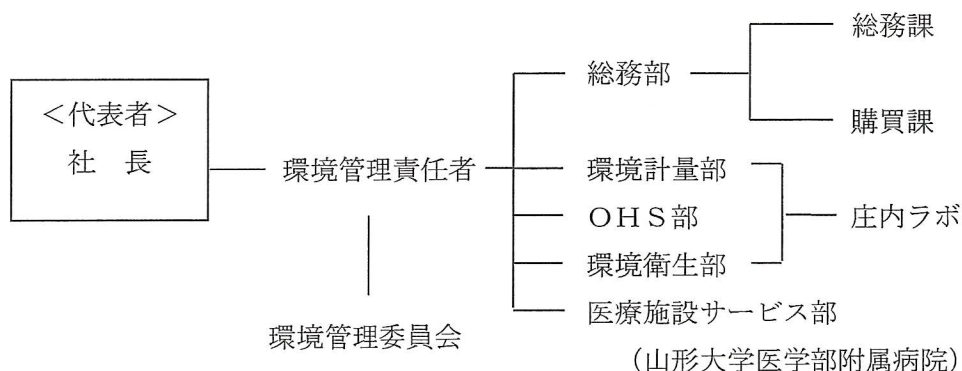
2-5. 事業の規模

- 資本金 1,000 万円、令和 6 年度総売上 263 百万円
- 従業員数 37 人

2-6. 認証・登録範囲

- 本社及び庄内ラボ

2-7. 実施体制



3. 環境経営目標及び環境経営計画

3-1. 2024年度環境経営目標

当社の環境経営目標を達成するための2024年度目標及び中長期目標は表-1に示すとおりです。

表-1 2024年度環境経営目標

目標項目	基準量 (2018年度)	中長期目標 (2022~2024年度)	2024年度目標
二酸化炭素排出量の削減	103,207 kg-CO ₂	基準年比3%削減 99,141 kg-CO ₂	基準年比3%削減 99,141 kg-CO ₂
排水量の削減 (水使用量の削減)	2023年度実績 971 m ³	2023年度維持 971 m ³	2023年度維持 971 m ³
廃棄物の削減	リサイクル率73.2%	リサイクル率80%以上	リサイクル率80%以上
グリーン購入	—	事務消耗品グリーン調達品化1品以上	事務消耗品グリーン調達品化1品以上
化学物質の管理	—	使用量の管理とリスクアセスメントを確実に実行する	使用量の管理とリスクアセスメントを確実に実行する
環境情報の発信	環境に関する付帯サービス70件	環境に関する付帯サービスを100件以上	環境に関する付帯サービスを100件以上
環境保全地域活動	12件	12件以上参加	12件以上参加

※電力排出係数は0.521 kg-CO₂/kwh(東北電力R2年度公表値)を使用。

3-2. 環境経営目標の担当部署及び責任

環境目標を達成するための担当部署及び責任者は表-2に示すとおりです。

表-2 環境経営目標の担当部署及び責任者

目標項目	担当部署	責任者
二酸化炭素排出量の削減	施設環境グループ	環境管理責任者
電気・灯油試料量の削減	施設環境グループ	施設環境グループ長
エコドライブの推進	車両グループ	車両グループ長
排水量の削減 (水使用量の削減)	施設環境グループ	環境管理責任者
廃棄物の削減	施設環境グループ	環境管理責任者
グリーン購入	購買課	購買課長
化学物質の管理	安全衛生グループ	安全衛生グループ長
環境情報の発信	施設環境グループ	環境管理責任者
環境保全のための地域活動	施設環境・企画広報グループ	環境管理責任者

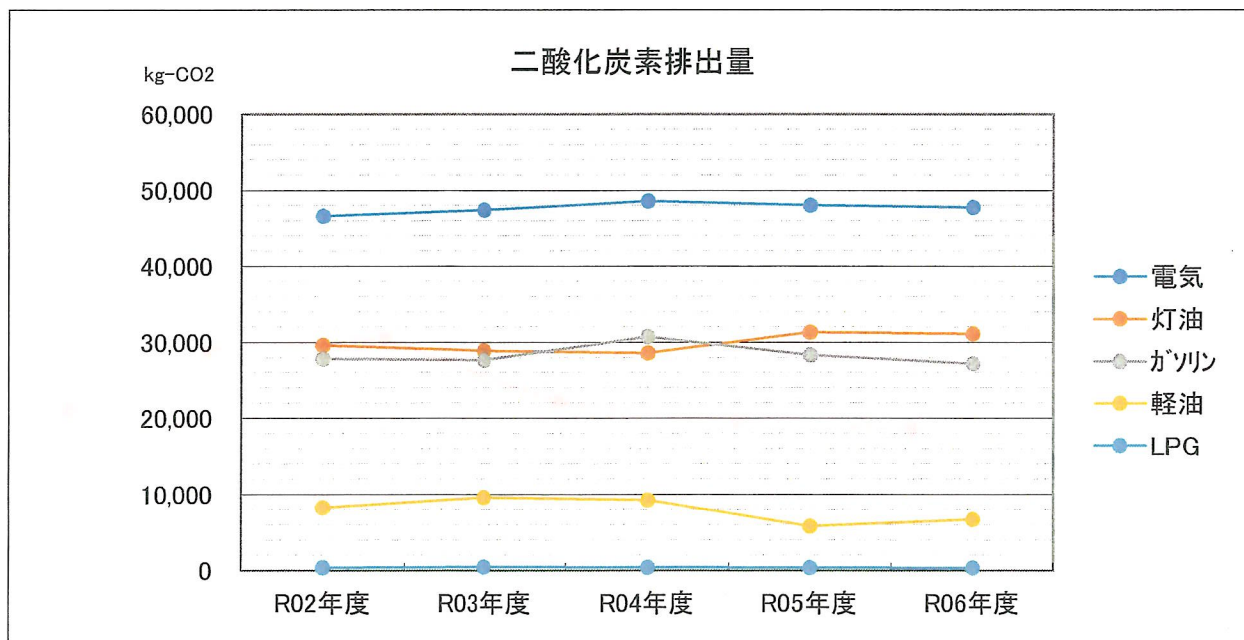
3-3. 環境経営計画（環境活動項目）

環境経営目標達成のための具体的な取組内容及び活動項目は、表-3に示すとおりです。

表-3 環境活動項目

環境目標	取組項目	活動項目	対応
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	空調温度管理（冷房時 28℃、暖房時 20℃設定）	総務
		使用していない部屋のエアコン停止	全員
		不要な照明の消灯	全員
		分析機器の効率的な稼働	全員
		使用していない機器の電源オフ	全員
		乾燥器の効率的な使用	全員
	ガソリン・軽油使用量の削減	エコドライブの実施	全員
		アイドリングの短縮	全員
		運行ルート効率化	全員
		過度な車両の使用を控える	全員
		適正な車両管理（5000km ごとのオイル交換）	車両
		低燃費車両への更新	車両
		エコタイヤの導入	車両
	灯油使用量の削減	適切な冷温水機の稼働	総務
	LPG の使用量の削減	使用時間の短縮	全員
排水量の削減	水使用量の削減	冷却水、洗浄水の適量使用	全員
		洗濯機の適正使用	全員
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	ビン・缶・ペットボトルのリサイクル	全員
		紙ごみの分別徹底	全員
	産業廃棄物の削減	プラスチックの分別、リサイクル	全員
		試薬ビンのリサイクル 分別徹底による埋立廃棄物の削減	全員
グリーン購入	グリーン購入調達品の増加	グリーン購入品の継続	購買
		グリーン購入新規対象品の検討	購買
化学物質の管理	化学物質の適正管理	PRTR 該当化学物質の購入量の把握	購買
		毒物の使用量の監視	安衛
環境情報の発信	顧客への環境情報の提供	環境情報の提供	全員
		環境に関する付帯サービス（提案・アドバイス）の実施	全員
環境地域活動	環境保護団体への協力	環境測定への協力	施設
		ボランティア活動への参加	全員

二酸化炭素排出量の削減は、目標値（平成30年(2018年)度実績から3%削減）に対して、14.1%増（二酸化炭素排出量14,001kg-CO₂増加）となりましたが、過去3年間にわたり減少傾向にあります。以下に、過去5年間の推移グラフ及び各項目の状況を記載します。



■ 電力使用量

目標値との比較で6,604kwh増（二酸化炭素排出量3,440 kg-CO₂増）となりましたが、前年度（R5年度）との比較では575kwh減少（二酸化炭素排出量300 kg-CO₂減少）になりました。基準年度から設備の更新（冷温水発生機、ICP-MS等）、業務量の増加による増加要因、気候要因（夏期の暑さ、冬期の寒さ）による冷温水発生機の稼働率上昇により、目標未達となりました。過去2年と比較して、僅かながら減少しているのは、日常の節電活動（空調温度管理、分析室内の排気装置・分析装置の稼働管理等）が結果に表れたと推察します。

■ 灯油使用量

目標値との比較で2,750L増加（二酸化炭素排出量6,853kg-CO₂増）、また、前年度（R5年度）から95L減少しました。（二酸化炭素排出量237 kg-CO₂減少。）気候要因（夏期の暑さ、冬期の寒さ）による冷温水発生機の稼働時間増加に伴い、灯油使用量が増加し目標未達となりました。

■ 車両燃料

目標値との比較で、ガソリンは1,170L増加、軽油は411L増加しました。合計の二酸化炭素排出量は3,796 kg-CO₂増加となりました。一方、前年度（令和5年度）との比較では、ガソリンは487L削減、軽油は327Lの増加となりました。2024年度は軽油を燃料とする社用車を用いる業務（大気部門、医療施設部門）が増加したことにより、燃料使用量の増加につながったと考えられます。

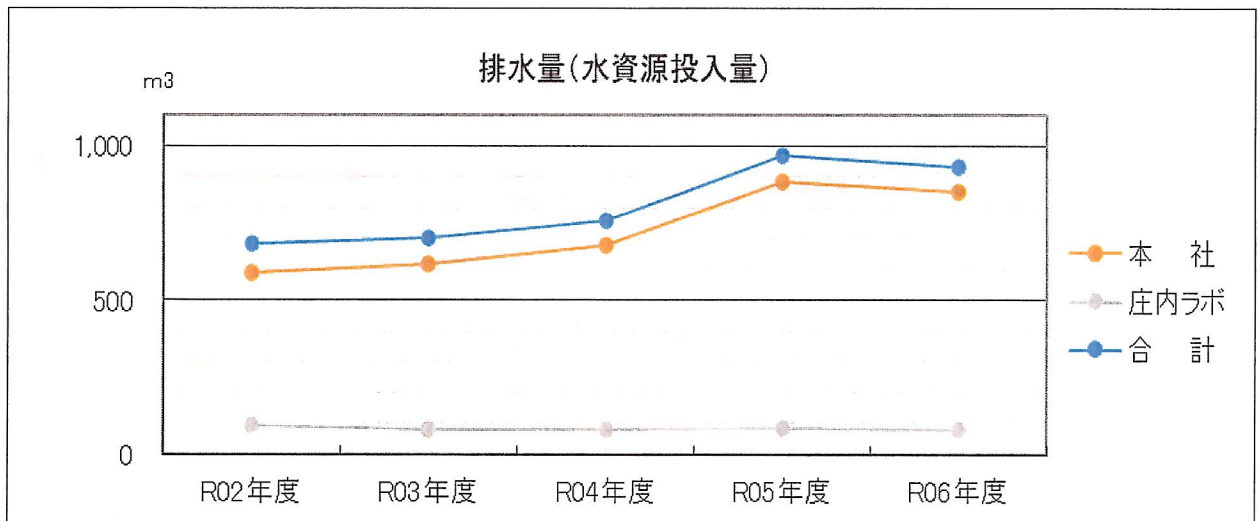
■ LPG 使用量

目標値との比較で14.21m³削減（二酸化炭素排出量88.3kg-CO₂削減）、また、前年度（R5年度）から13.45m³減少しました。（二酸化炭素排出量83.55 kg-CO₂減少。）今年度、分析方法を見直し、

ガスを使用する蒸留操作からイオンクロマトグラフ法に移行したため、ガスの使用量が削減できたと考えられます。

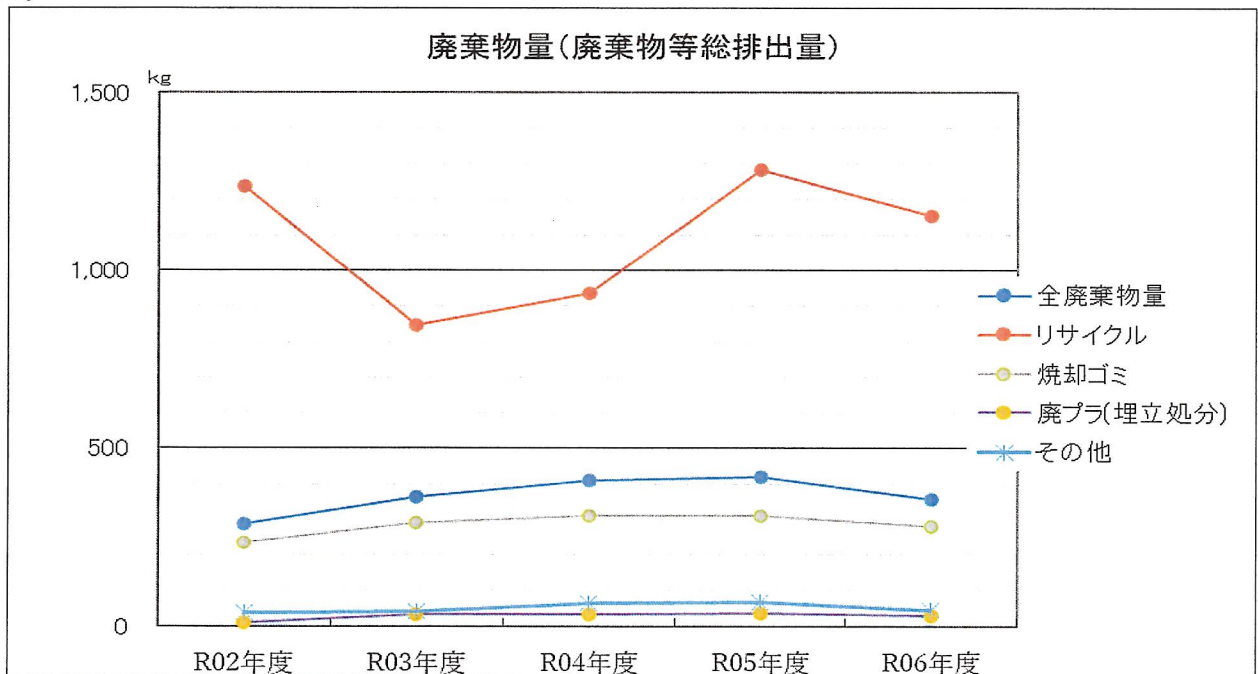
4-1. 3. 排水量の削減（水使用量の削減）

水使用量の削減は、目標（令和5年(2023年)度実績を維持）に対して、38m³の削減（3.9%削減）となりました。夏季の冷温水発生機の稼働状況が安定してきたことと、節水の実施により削減に至ったと考えられます。



4-1. 4. 廃棄物の削減

廃棄物のリサイクル率は76.4%となり目標の80%以上は達成できませんでした。可燃ごみ及び埋立廃棄物において十分な分別が行われなかったことが要因の一つと考えられます。前年度と比較して、総廃棄物量が減少したものの、リサイクル量も減ったためにリサイクル率として目標未達となりました。



※全廃棄物量…総廃棄物量－リサイクル量

4-1. 5. グリーン購入

グリーン購入はコスト面の問題があり、進めるには難しい面もありますが、今年度は事務用品（付箋紙）のグリーン購入を新たに開始しました。

4-1. 6. 化学物質の管理

毒物管理について安全衛生グループで残量確認等の管理を実施し、問題ないことを確認しました。また、PRTR 報告対象となる化学物質の使用はありませんでした。（使用量が少量のため）

4-1. 7. 環境情報の発信

品質に関する付帯サービスの中で、環境関連として対象となるのは 122 件でした。具体的な内容としては、環境法令改正情報の提供、測定結果及び管理についての説明対応、測定内容の相談対応、測定の必要性の説明、清掃方法のアドバイス等を実施しています。

4-1. 8. 環境保全のための地域活動

目標は 12 件以上の参加でしたが、2024 年度も環境関連では 12 件参加しています。主な内容としては、環境保全団体への協力、ボランティア参加（清掃活動）等です。



河川敷の清掃活動



回収ごみ

5. 環境経営計画の取組結果の評価

環境経営計画の取組結果の評価について表－6に示します。

表－6 環境経営計画（環境活動計画）の取組結果の評価

環境目標	取組項目	活動項目	評価
二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量の削減	空調温度管理（冷房時 28℃、暖房時 20℃設定）	○
		使用していない部屋のエアコン停止	○
		不要な照明の消灯	○
		分析機器の効率的な稼働	○
		使用していない機器の電源オフ	○
		乾燥器の効率的な使用	○
	ガソリン・軽油使用量の 削減	エコドライブの実施	○
		アイドリングの短縮	○
		運行ルート効率化	○
		過度な車両の使用を控える	○
		適正な車両管理（5000km ごとのオイル交換）	○
		低燃費車両への更新	-
		エコタイヤの導入	-
灯油使用量の削減	適切な冷温水機の稼働	○	
LPG の使用量の削減	使用時間の短縮	○	
排水量の削減	水使用量の削減	冷却水、洗浄水の適量使用	○
		洗濯機の適正使用	○
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	ビン・缶・ペットボトルのリサイクル	○
		紙ごみの分別徹底	○
	産業廃棄物の削減	プラスチックの分別、リサイクル	△
		試薬ビンのリサイクル	○
		分別徹底による埋立廃棄物の削減	△
グリーン購入	グリーン購入調達品の増加	グリーン購入品の継続	○
		グリーン購入新規対象品の検討	○
化学物質 の管理	化学物質の適正管理	PRTR 該当化学物質の購入量の把握	○
		毒物の使用量の監視	○
環境情報 の発信	環境情報の提供	環境情報の提供	○
		環境に関する付帯サービス（提案・アドバイス）の実施	○
環境地域活動	環境保護団体への協力	環境測定への協力	○
		ボランティア活動への参加	○

評価基準 ○：75%以上の実施率、△：50～75%の実施率、×：未実施、-：該当なし

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違

反、訴訟などの有無

6-1. 主な環境関連法規の遵守状況

■水質汚濁防止法

当社では排水基準を下回る値を自主管理値として管理しています。月 1 回の測定において、全て自主管理値以内であったことを確認しています。また構造点検において、施設に不具合がないことを確認しています。

■廃棄物の処理及び清掃に関する法律

廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ、廃油等、リサイクル処理品を含めた産業廃棄物及び特別管理廃棄物の保管状況、処理委託状況の確認、マニフェスト管理等について、問題が無いことを確認しています。

■化学物質排出把握管理促進法

PRTR 制度対象の化学物質の取扱量等をチェックし、報告義務が課せられる量と比べて十分に下回っていることを確認しています。

■フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律

3 ヶ月に 1 回の簡易点検の実施、廃棄時のフロン類回収の適正な実施を確認しています。

■環境関連法規等の改正内容の確認

環境関連法規の改正は、施設環境グループが改正状況を定期的にチェックし、改正があった場合には、当社の「遵守すべき法律等一覧表」及びチェック表の項目等を改訂し、最新情報として管理しています。

6-2. 違反、訴訟等の有無

当社では、環境関連法規の遵守状況について、上記のとおり毎年 4 月にチェックを実施しています。また、環境関連における苦情・意見等については施設環境グループが窓口になっており、それらは、全て環境コミュニケーションとして記録しています。これらの記録を確認した結果、法規違反及び訴訟等は EA21 活動を始めた平成 15 年（2003 年）から現在まで 1 件もありません。

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度以降の環境経営目標について、2024年度までの目標達成状況の評価から、基準年度として設定していた2018年度とは、業務量、社内設備等が変動しており、また過去3年間において、業務量、設備等が安定してきたことを考慮して、新たに2024年度の結果を基準年度として設定します。また、廃棄物排出量の削減に対する目標も事業として発生する廃プラスチック類をターゲットとしたリサイクル率として、表-7の内容とします。

表-7 中長期(2025~2027年度)環境経営目標及び2025年度目標

項目	基準値 (2024年度)	中長期目標 (2025~2027年度)	2025年度目標
CO ₂ 排出量の削減 (kg-CO ₂)	113,142	基準値比1%削減 112,010	基準値の維持 113,142
排水量の削減 (m ³)	933	基準値比1%削減 923	基準値の維持 933
廃棄物の削減	—	廃プラスチック類の リサイクル率85%以上	廃プラスチック類の リサイクル率80%
グリーン購入	—	事務消耗品グリーン調達 品化1品以上	事務消耗品グリーン調達 品化1品以上
化学物質の管理	—	使用量(購入量)管理と毒 物管理	使用量(購入量)管理と毒 物管理
環境情報の発信	環境に関する付帯サービ ス122件	環境に関する付帯サービ スを130件	環境に関する付帯サービ スを120件
環境地域活動	12件	12件以上参加を維持	12件以上参加を維持

※電力排出係数は0.521 kg-CO₂/kwh(東北電力R2年度公表値)を使用。

環境経営計画(環境活動項目)は2024年度と同様の内容として取組みます。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年度環境経営目標に対して、「二酸化炭素排出量の削減」、「廃棄物の削減」が未達成になりました。

■二酸化炭素排出量は目標比 14.1%増、前年度（2023年度）との比較では 0.8%減となりました。電力、灯油(冷暖房用)及び車両燃料の増加によるものであり、猛暑による影響及び遠方業務の増加が要因と考えられます。今後もエコドライブ、効率的な車両運行（運行経路、目的に合った車両サイズの選択）を進めます。

■水使用量は、目標比 3.9%減となりました。引き続き分析時の使用、洗濯等による使用において、節水の活動を継続します。

■廃棄物の削減についての目標はリサイクル率 80%以上となるように排出管理しています。2024年度の実績値は 76.4%となりました。特に廃プラスチックに関して分別不十分な状況も見受けられました。次年度は廃プラスチックに対する目標を設定し、埋立廃棄物の削減に取り組みます。その他、紙類の廃棄についてもこれまで同様再資源化に努めます。

■以上の状況から、2025年度の環境経営方針、環境経営目標・経営計画および実施体制については、以下のとおりとします。

□環境経営方針は 2025年度も現行内容を継続します。

□環境経営目標および環境経営計画は、基本的な取組項目は継続し、新たな中長期目標及び年度目標を設定します。

□環境経営計画はこれまでの内容を維持します。

